

2021 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2020 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2020 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

人文科学研究所は 2021 年度において 3 つの重点プロジェクトと、5 つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは、それぞれ(1)「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」、(2)「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」、(3)「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」を強く意識しながら研究を行っている。「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」においては、「間文化現象学研究」と「暴力からの人間存在の回復」の 2 つのユニットによって研究を推進し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」では、「政治・経済」的な側面および「観光・地理・文化」的側面からのアプローチを行い、グローバリゼーションに直面するアジア地域を多方面から研究している。

研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2021 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的に行った。

まず①「敗戦と戦後政治体制構想」(代表:小関素明)では計 3 回の研究会を開催し、一年間の研究成果のひとつとして特集号「戦後日本の熱源の探訪」(『立命館大学人文科学研究所紀要』、129 号)を公刊した。②「間文化現象学と暴力からの人間存在の回復」(代表:加國尚志)では、5 回の講演会・ワークショップ・研究会を行ない、これらの成果を小特集「デリダにおける「ポレモス」の思想と 20 世紀フランス」、および小特集「立命館大学間文化現象学研究センター／東京大学共生のための国際哲学研究センター共同主催シンポジウム「ひとはいかにして思考するのか？——バタイユ、ブランショ、ナンシー」」(『立命館大学人文科学研究所紀要』、128 号)で公刊した。③「グローバル化とアジアの地域」(代表:遠藤英樹)では国内外で 11 回の講演会・シンポジウム・ワークショップ・研究会を開催した。特に国際シンポジウムでは、ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ校からピーター・エイディ氏を、米国ウースター工科大学からミミ・シェラー氏を、南オーストラリア大学からアンソニー・エリオット氏を招聘し議論が行われ、海外の大学とのネットワークを一層強固なものとする事ができた。こうした研究成果は、特集「COVID-19 以後におけるフィールドワークの(不)可能性——“されどわれらが日々”のフィールドワーク」(『立命館大学人文科学研究所紀要』、131 号)においても公刊されている。

若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。その具体的な成果として、本研究所から育った若手研究者が大学教員の職を得たり、他研究機関の研究員に採用されたり、民間財団の研究助成に採択されたりしている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が続く中、様々な制約はあったものの、2021 年度の研究活動においても所期の目的を順当に推進できたと言えよう。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2022年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
研究所長・センター長	遠藤 英樹	文学部	教授	
運営委員	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授	
	小関 素明	文学部	教授	
	加國 尚志	文学部	教授	
	亀井 大輔	文学部	教授	
	川村 仁子	国際関係学部	准教授	
	神田 孝治	文学部	教授	
	白戸 圭一	国際関係学部	教授	
	藤巻 正己	文学部	特任教授	
	本田 稔	法学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	ウェルズ 恵子	文学部	教授	
	花崎 育代	文学部	教授	
	加藤 政洋	文学部	教授	
	伊勢 俊彦	文学部	教授	
	林 芳紀	文学部	教授	
	谷 徹	文学部	特任教授	
	山本 理佳	文学部	准教授	
	鈴木 崇志	文学部	准教授(任期制)	
	市井 吉興	産業社会学部	教授	
	松田 亮三	産業社会学部	教授	
	鎮目 真人	産業社会学部	教授	
	住田 翔子	産業社会学部	准教授	
	漆原 良	産業社会学部	教授	
	小林 ハッサル 柔子	グローバル教養学部	准教授	
	竹中 歩	グローバル教養学部	准教授	
	前川 一郎	グローバル教養学部	教授	
	本名 純	国際関係学部	教授	
	石崎 祥之	経営学部	教授	
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授	
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授	
	勝村 誠	政策科学部	教授	
	佐藤 愛	言語教育センター	嘱託講師	
	横田 祐美子	衣笠総合研究機構	助教	

学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	山口 一樹	衣笠総合研究機構	専門研究員	
		寺澤 優	衣笠総合研究機構	専門研究員	
		西田 彰一	衣笠総合研究機構	専門研究員	
		伊故海 貴則	衣笠総合研究機構	専門研究員	
		小田切 建太郎	衣笠総合研究機構	専門研究員	
	② リサーチアシスタント				
	③ 大学院生	狩野 晃一	文学研究科	博士課程前期課程	
		LIANG Yuyao	文学研究科	博士課程前期課程	
		LIU Yazhi	文学研究科	博士課程前期課程	
		秦 知央	文学研究科	博士課程前期課程	
		GU Yuxiao	文学研究科	博士課程前期課程	
		TANG Xuelin	文学研究科	博士課程前期課程	
		高田 一輝	文学研究科	博士課程前期課程	
		斉藤 仁志	文学研究科	博士課程後期課程	
		十河 和貴	文学研究科	博士課程後期課程	
		古 文英	文学研究科	博士課程後期課程	
		海野 大地	文学研究科	博士課程後期課程	
		福井 優	文学研究科	博士課程後期課程	
		吉水 希枝	文学研究科	博士課程後期課程	
		中井 悠貴	文学研究科	博士課程後期課程	
		落合 優翼	文学研究科	博士課程後期課程	
		前田 一馬	文学研究科	博士課程後期課程	
		印牧 真明	文学研究科	博士課程後期課程	
		SONG Yuanxi	文学研究科	博士課程後期課程	
		市川 博規	文学研究科	博士課程後期課程	
		田中 将太	文学研究科	学振特別研究員 DC	
		宮下 祥子	社会学研究科	博士課程後期課程	
		下村 晃平	社会学研究科	博士課程後期課程	
		塩野 仁志	社会学研究科	博士課程後期課程	
		角田 燎	社会学研究科	博士課程後期課程	
		五十嵐 美華	国際関係研究科	博士課程後期課程	
	川口 由香	国際関係研究科	博士課程後期課程		
北 和樹	国際関係研究科	博士課程後期課程			
④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	丸山 彩	立命館大学	学振特別研究員 RPD		
	吉松 覚	立命館大学	学振特別研究員 RPD		
	伊藤 潤一郎	立命館大学	学振特別研究員 PD		
	佐野 泰之	立命館大学	学振特別研究員 PD		
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	有村 直輝	文学部	授業担当講師		
	吉田 武弘	文学部	授業担当講師		
	眞杉 侑里	文学部	授業担当講師		

	青柳 雅文	文学部	非常勤講師
	神田 大輔	文学部	非常勤講師
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師
	平尾 昌宏	文学部	非常勤講師
	小林 琢自	文学部	非常勤講師
	平石 貴士	産業社会学部	授業担当講師
	塩見 俊一	産業社会学部	非常勤講師
	松下 冽	国際関係学部	授業担当講師
	松井 信之	国際関係学部	授業担当講師
	龍澤 邦彦	国際関係学部	特任教授
	梶居 佳広	教養教育センター	非常勤講師
	半田 侑子	加藤周一現代思想研究センター	研究員
客員協力研究員	井澤 友美	人文科学研究所	客員研究員
	山口 達也	人文科学研究所	客員研究員
	顔原 善徳	人文科学研究所	客員研究員
	島田 龍	人文科学研究所	客員研究員
	Andika Muhammad Tri	人文科学研究所	客員研究員
	麻生 将	人文科学研究所	客員研究員
	赤澤 史朗	立命館大学	名誉教授
	今西 一	小樽商科大学	名誉教授
	韓 準祐	多摩大学	准教授
	奈良 勝司	広島大学大学院	准教授
	Muhammad Tri Andika Kurniawan	Bakrie University, Indonesia	Lecturer
	佐藤 太久磨	漢陽大学校国際文化大学	助教
	谷崎 友紀	せとうち観光専門職短期大学	助教
	二村 洋輔	至学館大学	助教
	間中 光	追手門学院大学	専任講師
	河原 梓水	福岡女子大学国際文理学部	講師
	猪原 透	関西学院大学	非常勤講師
	安田 峰俊	ノンフィクション作家	
その他の学外者	中谷 義和	立命館大学	名誉教授
	佐藤 誠	立命館大学	名誉教授
	Christina De Matos	Faculty of Arts & Sciences and Business & Law, the University of Notre Dame Australia (Australia)	Senior Lecturer, Associate Dean Research

Shinnosuke Takahashi	Victorian University of Wellington (New Zealand)	Lecturer
Christine Winter	College of Humanities, Arts and Social Science, Flinders University (Australia)	Matthew Flinders Fellow
Rowena Ward	Faculty of the Arts, Social Sciences and Humanities, University of Wollongong (Australia)	Senior Lecturer
古村 学	宇都宮大学	准教授
Filip Gurjanov	間文化現象学研究センター	客員研究員
Daniel Milne	京都大学	講師
De Antoni Andrea	京都大学	特定准教授
丸橋 裕	京都大学大学院医学科	非常勤講師
鈴木 裕貴	京都大学大学院人間・環境学研究科	博士課程後期課程
橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
Michel Dalissier	金沢大学	准教授
佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域人間科学系	准教授
池田 裕輔	釧路工業高等専門学校	准教授
川崎 唯史	熊本大学大学院	助教
杉本 俊介	慶応義塾大学商学部	准教授
路 劍虹	江蘇海洋大学日本語学科	講師
安田 慎	高崎経済大学	准教授
吉川 孝	高知県立大学文化学部	准教授
浅沼 光樹	高野山大学	非常勤講師
松田 智裕	国立情報学研究所	特任研究員
種田 博之	産業医科大学	講師
藤木 篤	神戸市看護大学看護学部人	准教授
川瀬 雅也	神戸女学院大学文学部	教授
柿木 伸之	西南学院大学国際文化学部	教授
宮崎 裕助	専修大学文学部	教授
長坂 真澄	早稲田大学国際教養学部	准教授
馬場 靖人	早稲田大学総合人文科学研究センター	招聘研究員
加茂 利男	大阪市立大学	名誉教授
赤坂 辰太郎	大阪大学	助教
小西 真理子	大阪大学大学院文学研究科	講師
藤川 隆男	大阪大学文学部西洋史学部	教授
酒井 麻依子	筑波大学	学振特別研究員 PD
廣瀬 浩司	筑波大学人文社会系	教授

	村井 則夫	中央大学文学部	教授
	三谷 舜	中京大学スポーツ科学部	任期制講師
	上田 滋夢	追手門学院大学社会学部	教授
	渡部 瑞希	帝京大学	講師
	藤野 真挙	東儀大学校	教授
	榊原 哲也	東京女子大学現代教養学部	教授
	中澤 英輔	東京大学大学院医学系研究科	講師
	三枝 暁子	東京大学大学院人文社会系研究科	准教授
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科	准教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	西山 雄二	東京都立大学人文科学研究科	教授
	伊吹 友秀	東京理科大学	准教授
	大野 哲也	桃山学院大学	教授
	松葉 祥一	同志社大学	嘱託講師
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	准教授
	寺岡 伸悟	奈良女子大学	教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	堀野 正人	二松学舎大学	教授
	松本 健太郎	二松学舎大学	教授
	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
	黒岡 佳柁	福州大学	教員
	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教員
	須藤 廣	法政大学	教授
	井手上 和代	明治学院大学国際学部	専任講師
	池田 喬	明治大学文学部	准教授
	石井 香世子	立教大学	教授
	轟 博志	立命館アジア太平洋大学	教授
	四本 幸夫	立命館アジア太平洋大学	教授
	齊藤 広晃	立命館アジア太平洋大学	准教授
研究所・センター構成員	計 168 名 (うち学内の若手研究者 計 36 名)		

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2022年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
-----	----	-----------	---------	------	----------------------	-----------	------

1	亀井大輔	東アジアにおける哲学の生成と展開——間文化の視点から	共著	2022年2月	法政大学出版局	廖欽彬・伊東貴之・河合一樹・山村奨編著	PP. 91-109
2	有村直輝	生成の美と論理 ホワイトヘッドの形而上学	単著	2022年3月	晃洋書房		PP. 1-224
3	川崎唯史	メルロ＝ポンティの倫理学 誕生・自由・責任	単著	2022年3月	ナカニシヤ出版		PP. 1-332
4	伊藤潤一郎	ジャン＝リュック・ナンシーと不定の二人称	単著	2022年2月	人文書院		PP. 1-328
5	Toru Tani	Phenomenology of Xing-Xing - East Asian and European Perspectives on Mind-Nature	共著	2021年6月	Königshausen & Neumann	ed. by Wei Zhang, Wenjing Cai	PP. 66-78
6	谷徹	現象学 未来からの光芒——新田義弘教授追悼論文集	共著	2021年4月	学芸みらい社		PP. 130-141
7	林芳紀	マンガで学ぶ スポーツ倫理	共著	2021年7月	化学同人	伊吹友秀、KEITO	PP. 1-156
8	遠藤英樹	ポップカルチャーで学ぶ社会学入門——「当たり前」を問い直すための視座	単著	2021年4月	ミネルヴァ書房		全202頁
9	遠藤英樹	「趣味に生きる」の文化論——シリアスレジャーから考える	共著	2021年4月	ナカニシヤ出版	宮入恭平・杉山昂平編	PP. 144-152
10	遠藤英樹	ちびまる子ちゃんの社会学	共著	2021年11月	古今書院	友原嘉彦編	PP. 20-39
11	遠藤英樹、松本健太郎、渡部瑞希、橋本和也、須藤廣、神田孝治、藤巻正己、間中光、安田慎	アフターコロナの観光学——COVID-19以後の「新しい観光様式」	共著	2021年12月	新曜社	遠藤英樹編著	遠藤：PP. 3-18、24-39 松本：PP. 40-58 渡部：PP. 59-73 橋本：PP. 102-116 須藤：PP. 117-134 神田：PP. 136-149 藤巻：PP. 164-177 間中：PP. 178-193 安田：PP. 209-221
12	神田孝治、山本理佳、藤巻正己、薬師寺浩之、遠藤英樹	現代観光地理学への誘い——観光地を読み解く視座と実践	共著	2022年1月	ナカニシヤ出版	神田孝治・森本泉・山本理佳編著	神田：PP. 1-8、10-17、20-27、38-39、72-79、124-131、144-151 山本：PP. 40-47 藤巻：PP. 82-89、132-133 薬師寺：PP. 114-121 遠藤：PP. 166-171
13	遠藤英樹、神田孝治、須藤廣、寺岡伸悟、堀野正人、前田一馬、松本健太郎、安田慎	よくわかる 観光コミュニケーション論	共著	2022年3月	ミネルヴァ書房	須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎編著	遠藤：PP. 6-9、22-23、28-29、36-37、90-91、112-113、120-121、170-171、184-185、196-197、198-199、212-213、214-215 神田：PP. 32-33、190-191 須藤：PP. i-vi、

							142-5、24-25、 26-27、66-67、 84-85、106-107、 148-149、200- 201、208-209 寺岡：PP. 62-63 堀野：PP. 86-87、 110-111 前田：PP. 178- 179 松本：PP. 10-13、 14-17、104-105、 138-139、140- 141、154-155、 160-161、174- 175、188-189、 202-203 安田：PP. 82-83、 210-211
14	遠藤英樹、 須藤廣	アンソニー・エリオット著、 デジタル革命の社会学—— AI がもたらす日常世界の ユートピアとディストピア	共訳	2022年3月	明石書店	アンソニー・エリオ ット著 遠藤英樹・須藤廣・高 岡文章・濱野健訳	遠藤：PP. 3-5、 15-23、211-240、 241-303、305- 310 須藤：9-13、25- 55、57-95
15	神田孝治	臺北州建州百年——在地化 與國際化的視角	共著	2021年7月	國立臺北大學海山學研究中 心・新北市立圖書館	陳俊強・洪健榮主編	PP. 47-72
16	安田峰俊	中国 vs. 世界	単著	2021年5月	PHP 研究所 (PHP 新書)		全232頁
17	川村仁子	グローバル秩序論——国境 を越えた思想・制度・規範 の共鳴	共著	2022年3月	晃洋書房	川村仁子・龍澤邦彦 共著	全314頁
18	麻生将	「政治」を地理学する 政 治地理学の方法論	共著	2022年3月	ナカニシヤ出版	山崎孝史編著	PP. 105-117
19	鎮目真人	『たのしく学ぶ社会福祉 誰もが人間らしく生きる社 会をつくる』	共著	2021年5月	ミネルヴァ書房	丹波史紀、石田賀奈 子、黒田学、長谷川千 春ほか	PP. 134-151
20	三枝暁子	15 世紀における北野社領 西京と西京神人	共著	2021年6月	勉誠出版	永村眞編	pp. 376-399
21	三枝暁子	身分と法—身分の体系化と 可視化—	共著	2021年7月	吉川弘文館	松園潤一朗編	pp174-187
22	ジェフリー ・キダー	パルクールと都市：トレイ サーのエスノグラフィ	共訳	2022年3月	ミネルヴァ書房	市井吉興・住田翔子 ・平石貴士 (監訳) 塩 見俊一・三谷舜 (訳)	全275頁
23	Christine Winter	Promise and protection: New Guinea Villagers and the Role of Christianit y during the Pacific War	単著	2021年9月	Transpacific Visions: Co nnected Histories of the Pacific across North an d South	Yasuko Hassall Kob ayashi, Shinnosuke Takahashi (Eds.)	PP. 21-46
24	Rowena Ward	Japanese Civilian Intern ees in New Caledonia: A Gap between Protecting P owers and the ICRC	単著	2021年8月	Captivity in War during the Twentieth Century, P algrave Macmillan	Berni, Marcel and Tamara Cubito	PP. 101-118
25	Rowena Ward	The Transnational in ‘J apanese’ Civilian Inter nment Camps in Australia and India	単著	2022年1月	Transnational Spaces of India and Australia, Pal grave Macmillan	Sharrad, P. and D. N. Bandyopadhyay	PP. 35-52
26	Rowena Ward	Oosutoraria ni okeru nih onkenkyuu no genjo’ (In Japanese: Current State of Japanese Studies in Australia)	単著	2021年	Kokusai Nihon Kenkyuu: k onsoushiamu Japanese Stu dies: Perspectives from the Pacific Rim (Nichibu nken: Kyoto)		PP. 43-47
27	小林ハッサ ル柔子	『文明の物流史観』	共著	2021年7月	成山堂書店	黒田 勝彦	
28	小林ハッサ ル柔子	ヘイトに立ち向かう社会的 免疫力-オーストラリアの	共著	2021年5月	共和国、清原悠編『レイシ ズムを考える』	明戸隆浩、安部彰、伊 藤昌亮、遠藤正敬 兼	PP. 308-326

		イスラムフォビアの事例から				子歩、金友子、清原悠、小林・ハッサル・柔子、五味潤典嗣、澤佳成、隅田聡一郎、高史明、竹田恵子、堀田義太郎、松本卓也、間庭大祐、百木漠、山崎望、山本興正、山本浩貴、梁英聖	
29	小林ハッサル 柔子	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific Across	共編著	2021年9月	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific Across North and South	Takahashi, Shinnosuke	
30	川村仁子	プライマリー国際関係学	分担執筆	2021年4月	ミネルヴァ書房	足立研幾、板木雅彦、白戸圭一、鳥山純子、南野泰義編	pp. 76-93.
31	川村仁子 龍澤邦彦	グローバル秩序論—国境を越えた思想・制度・規範の共鳴	共著	2022年3月	晃洋書房		pp. 1-314.
32	松下洸	ウィリアム・I・ロビンソン『グローバル警察国家：人類的な危機と「21世紀型ファシズム」』	監訳	2021年10月	花伝社		
33	松下洸	日本の国際協力 中南米編	編著	2021年12月	ミネルヴァ書房		
34	白戸圭一	はじめてのニュースリテラシー	単著	2021年3月	筑摩書房		pp. 1-218
35	本名純	インドネシア—コロナ危機下の反民主的政アジェンダ	単著	2021年12月	新興国から見るアフターコロナの時代：米中対立の間に広がる世界 東京大学出版会	川島真・池内恵編	pp. 81-89
36	井手上和代	Export-Led Industrialisation from Within: The Role of Mauritian Sugar Planters and Multi-Ethnic and International Collaboration	単著	2021年4月	Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy Langaa RPCIG	Motoki Takahashi Shuichi Oyama	pp. 1-430

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	小関素明	天皇制と「大東亜戦争」関与の精神構造—負い目と擬態の精神史—	単著	2021年12月	立命館大学人文科学研究紀要129	なし	PP. 7-89	有
2	山口一樹	一九二〇年代後半における政党政治と陸軍：政党への系列化をめぐる	単著	2021年	ヒストリア287	なし	PP. 30-54	有
3	山口一樹	戦場体験が問いかける「生存」とナラティブ：やなせたかしと水木しげるの比較を通じて	単著	2022年12月	立命館大学国際平和ミュージアム紀要23	なし	PP. 53-61	有
4	寺澤優	(会議報告) 立命館史資料センター「座談会 中川小十郎研究のこれまでとこれから」	単著	2021年	立命館史資料センター研究紀要5	なし	PP. 165-226	無

5	寺澤優	(要旨集) 寺澤優 「戦前日本の売買 春産業と身売り」	单著	2021年 8月	日韓次世代学術 フォーラム第18 回大会要旨集	なし	*文字化けのため頁不明	無
6	寺澤優	(要旨集) 寺澤優 「私娼取締と警察 腐敗—戦前期東京 の警視庁と花街・ 銘酒屋街の関係—」	单著	2021年 8月	中国四国歴史学 地理学協会 2021 年度大会部会報 告要旨集	なし	P. 2	無
7	西田彰一	天皇機関説と笈克 彦	单著	2021年 5月	島 蘭 進・末木 文美士・大谷 栄 一・西村 明編 『近代日本宗教 史第4巻 戦争の 時代 昭和初期～ 敗戦』(春秋社)	なし	PP. 92-95	無
8	西田彰一	南原繁の戦後教育 改革に至る思想形 成—戦前日本の 政治体制への対峙—	单著	2021年 8月	南原繁研究会編 『南原繁と戦後 教育改革—意 義と継承—』 (横濱大氣堂)	なし	PP. 45-69	無
9	西田彰一	政治教育協会と水 野錬太郎の政治思 想	单著	2021年 12月	立命館大学人文 科学研究所紀要 129	なし	PP. 351-376	
10	西田彰一	水野錬太郎と国士 館の教育—国士 館の高等教育機関 化への関わり	单著	2022年 3月	国士館史研究紀 要 楓原13	なし	PP. 14-39	有
11	西田彰一	東大寺と「文化」の インスピレーショ ン—観音院サロ ンと上司海雲	单著	2022年 3月	・奈良県立大学 ユーラシア研究 センター編 『奈良県立大学 ユーラシア研究 センター学術叢 書 3 奈良に蒔か れた言葉 近世・ 近代の思想』(京 阪奈情報教育出 版)	西田彰一ほ か11名	PP. 171-195	無
12	西田彰一	亀井勝一郎と入江 泰吉—大和の風 景をめぐる「滅び の姿」と「祈り」	单著	2022年 3月	・奈良県立大学 ユーラシア研究 センター編 『奈良県立大学 ユーラシア研究 センター学術叢 書 3 奈良に蒔か れた言葉 近世・ 近代の思想』(京 阪奈情報教育出 版)	西田彰一ほ か11名	PP. 196-200	無
13	西田彰一	社会主義国の成立 を保守派知識人は どう見たか	单著	2022年 3月	歴史学会編『歴史 総合 世界と日 本—激変する 地球人類の未来 を読み解く』(戎 光祥出版 2022年 3月)	西田彰一ほ か16名	PP. 95-105	
14	伊故海貴則	明治0年代の地域 社会における「多 数決制議会」の導 入とその波紋—浜 松県を事例に—	单著	2021年 12月	立命館大学人文 科学研究所紀要 129	なし	PP. 26-308	有
15	十河和貴	第二次若槻内閣の 行政制度改革構想	单著	2021年	日本史研究 708	なし	PP. 17-45	有

		と政党内閣制一拓務省廃止問題再考一						
16	海野大地	明治末期における地租改革論	単著	2021年12月	立命館大学人文科学研究所紀要129	なし	PP. 309-350	有
17	田中将太	明治期軍人恩給制度の確立-谷干城の動向を中心に-	単著	2022年3月	立命館史学41	なし	PP. 1-32	有
18	中井悠貴	二・一一集会——各地の記録<京都>	単著	2021年	歴史科学協議会855	なし	PP. 108-109	無
19	中井悠貴	「国際的民本主義」から「人類の祖国日本」へ—藤澤親雄の国際秩序観—	単著	2021年12月	立命館大学人文科学研究所紀要129	なし	PP. 229-261	有
20	中井悠貴	<書評>西田彰一著『躍動する「国体」——寛克彦の思想と活動』(ミネルヴァ書房、2020年)	単著	2022年12月	日本思想史研究会会報38	なし	PP. 122-127	有
21	丸山彩	『ウタノエホン大東亜共栄唱歌集』は歌われたのか—戦時下の子どもたちの歌に関する記憶—	単著	2021年8月	音楽教育史学会創立30周年記念誌	なし	PP. 53-62	有
22	半田侑子	「日本文化の雑種性」の成立について	単著	2021年12月	立命館大学人文科学研究所紀要129	なし	PP. 161-200	有
23	吉田武弘	琵琶湖疏水記念館一館内から館外に広がるフィールドミュージアム—	単著	2022年2月	土木技術77-2	なし	PP. 68-73	無
24	眞杉侑里	近代名古屋市域における売春営業の変遷と分布	単著	2022年	Antitled1	なし	PP. 5-32	有
25	眞杉侑里	1934年愛知県廃娼案にみる遊廓組合の思惑	単著	2022年	近代日本学研究75	なし	PP. 232-254	有
26	猪原透	明治・大正期における熱力学的世界観—日本における「エネルギー論」受容を中心に—	単著	2021年12月	立命館大学人文科学研究所紀要129	なし	PP. 201-228	有
27	猪原透	明治期の社会学と国際関係論	単著	2022年3月	Antitled1	なし		有
28	佐藤太久磨	<書評>クリントン・ゴダール著、碧海寿広訳『ダーウィン、仏教、神——近代日本の進化論と宗教』	単著	2021年6月	図書新聞3498	なし	5面	無
29	佐藤太久磨	<書評>小関素明著『日本近代主権と「戦争革命」』	単著	2022年3月	立命館史学41	なし	PP. 143-149	有
30	奈良勝司	中川小十郎研究のこれまで これから	山崎有恒・長谷川澄夫・奈良勝司_他	2022年3月	立命館史資料センター紀要5	山崎有恒・長谷川澄夫ほか	PP. 165-226	無

			7名					
31	頼原善徳	憲法典の欠缺とその克服としての日本国憲法第九十八条第二項	単著	2021年12月	立命館大学人文科学研究所紀要129	なし	PP. 123-160	有
32	島田龍	詩人の救済—伊藤整と左川ちか、「幽鬼の村」(1938)論	単著	2021年7月	立命館文学674	なし	PP. 1-14	有
33	島田龍	左川ちか翻訳考：1930年代における詩人の翻訳と創作のあいだ—伊藤整、H・クロスビー、J・ジョイス、V・ウルフ、H・リード、ミナ・ロイを中心に	単著	2022年12月	立命館文学677	なし	PP. 1-29	有
34	島田龍	<書評>秋山圭『「ウルトラマリ」の旅人 渡良瀬の詩人 逸見猶吉』	単著	2021年5月	現代詩手帖64-5	なし	PP. 83	有
35	河原梓水	飯田豊一（濡木痴夢男）氏の軌跡とその仕事—新出インタビュー原稿によせて	単著	2021年7月	立命館文学674	なし	PP. 14-53	有
36	河原梓水	【対談】京大・緊縛シンポジウムを考える	対談記録	2021年8月	フィルカル5-2	小西真理子	PP. 206-226	無
37	河原梓水	歴史のなかの「SM」小説	単著	2021年12月	Roca BDSM Magazine 2	なし	PP. 20-23	無
38	河原梓水	緊縛研究と哲学者—京大・緊縛シンポジウムとは何だったのか	単著	2022年3月	臨床哲学ニューズ・レター4	なし	PP. 69-84	有
39	河原梓水	セクシュアリティの生活記録運動—戦後日本における「変態性欲」と近代的夫婦生活	単著	2022年3月	Antitled1	なし	PP. 33-58	有
40	Daisuke Kamei	Д е р р и д а и а п о р и я т а н а и с т о р и з м а : о т т е к с т а в ъ р х у Ф у к о д о „ З а г р а м а т о л о г и я т а “ (Derrida and the Aporia of Historicism: from the Foucault-essay to Of Grammatology・ブルガリア語訳)	単著	2022年1月	Pironm、第22号		オンラインジャーナルにつき頁数なし、全12ページ	無
41	黒岡佳柱	対話としてのケア—ハイデガーにおけるケア論の可能性とその展望—	単著	2021年11月	立命館大学人文科学研究所紀要128巻		PP. 125-150	有

41	松葉祥一	戦争の弁証法？— 『弁証法、戦争、 解読』を読む—	単著	2021年 11月	立命館大学人文 科学研究所紀要 128巻		PP. 41-52	有
42	松田智裕	応答と課題—デ リダをさらに「解 読」するために—	単著	2021年 11月	立命館大学人文 科学研究所紀要 128巻		PP. 53-68	有
43	横田祐美子	さらに先へと進ん でいくこと—パ タイユにおける非 -知と賭け	単著	2021年 11月	立命館大学人文 科学研究所紀要 128巻		PP. 71-86	有
44	伊藤潤一郎	眠りと思考—ジ ヤン=リュック・ ナンシーにおける 思考のリズムにつ いて—	単著	2021年 11月	立命館大学人文 科学研究所紀要 128巻		PP. 105-124	有
45	谷徹	二つの危機と哲学	単著	2021年 11月	公益財団法人東 洋哲学研究所		PP. 146-168	無
46	鈴木崇志	自分に向けて話す こと、他者に向け て話すこと：ウィ トゲンシュタイン とフッサール	単著	2021年 11月	現代思想		PP. 223-233	無
47	鈴木崇志	現れる他者との向 き合い方：現象学 の立場から	単著	2021年 11月	現代思想		PP. 226-236	無
48	遠藤英樹	風に吹かれて— 中動態としてのフ ィールドワークに よる「新しい実在 論」	単著	2022年 1月	立命館大学人文 科学研究所、立命 館大学人文科学 研究所紀要、131 号		PP. 9-35	有
49	遠藤英樹	ライティング・ツ ーリズム—新型 コロナウイルス感 染症 (COVID-19) 以 後の観光研究	単著	2022年 3月	観光学術学会、観 光学評論、10巻1 号		PP. 17-29	有
50	山本理佳	フィールドワーク 的観光の可能性— 親密性をめぐる —試論	単著	2022年 1月	立命館大学人文 科学研究所、立命 館大学人文科学 研究所紀要、131 号		PP. 135-153	有
51	藤巻正己	<追想>あるマレ ーシア研究者のフ ィールド経験— ジオグラファー× フォトグラファー の「語り」	単著	2022年 1月	立命館大学人文 科学研究所、立命 館大学人文科学 研究所紀要、131 号		PP. 91-111	有
52	藤巻正己	21世紀における地 球社会の諸課題と ツーリズム研究— —エアスタディ の観点から	単著	2022年 3月	観光学術学会、観 光学評論、10巻1 号		PP. 69-72	有
53	羽谷沙織	カンボジア古典舞 踊ロバム・ボラン の継承にみる芸道 的徒弟教育—王 立芸術大学とディ アスポラ民間舞踊 学校の比較から	単著	2021年 7月	比較教育学研究、 63号		PP. 134-155	有
54	羽谷沙織	フランス植民地期 におけるカンボジ ア宮廷舞踊と舞踊 継承の学校教育化	単著	2021年 11月	アジア教育学会、 アジア教育、15巻		PP. 9-21	有
55	轟博志	申景濬『山水考』と 『山経表』の内容	単著	2021年 6月	韓国古地図研究、 13巻1号		PP. 95-112	有

		比較						
56	轟博志	全国地理誌に現れた 濟州島の位置づけ	単著	2021年 8月	濟州島研究、56号		PP. 77-92	有
57	橋本和也	フィールドワーカーの 人類学——歩くことを めぐって	単著	2022年 1月	立命館大学人文科学 研究所、立命館大学 人文科学研究所紀要、 131号		PP. 63-89	有
58	橋本和也	書評 吉田竹也著 『地上の樂園の観光と 宗教の合理化——バリ そして沖繩の100年の 歴史を振り返る』人間 社	単著	2022年 6月	南山人類学年報、第 12号		PP. 279-284	有
59	薬師寺浩之	観光研究における ネットグラフィ——調 査の可能性	単著	2022年 1月	立命館大学人文科学 研究所、立命館大学 人文科学研究所紀要、 131号		PP. 181-214	有
60	韓準祐	「SAVOR JAPAN 農 泊食文化海外発信地 域」の申請に関する報 告	単著	2022年 3月	多摩大学グローバル スタディーズ学部、多 摩大学グローバルスタ ディーズ学部紀要、 14号		PP. 149-165	無
61	間中光	ボランティアツーリ ズムのオンライン化は 誰を資するのか——コ ロナ禍における海外ボ ランティアから問う「 フィールド」の含意	共著	2022年 1月	立命館大学人文科学 研究所、立命館大学 人文科学研究所紀要、 131号	藤山一郎	PP. 215-240	有
62	麻生将	近代の都市部にお けるプロテスタント 教会の存続状況—— 京都市と大阪市の比 較	単著	2021年 7月	キリスト教史学、75 巻		PP. 109-123	有
63	麻生将	写真資料を用いた 宗教研究に関する試 論——1910～30年 代のキリスト教会を 事例に	単著	2022年 3月	佛教大学歴史学部、 佛教大学歴史学部論 集		PP. 19-37	無
64	須藤廣	観光とフィールドワ ークのパフォーマンス ——Covid-19にお ける移動危機から見 えてくる観光研究と フィールドワークの同 型性についての試論	単著	2022年 1月	立命館大学人文科学 研究所、立命館大学 人文科学研究所紀要、 131号		PP. 113-134	有
65	渡部瑞希	COVID19の影響に よるフィールドワーク の再定位とオンライン 調査の可能性——「 現場の不在」に伴う Zoom調査の事例か ら	単著	2022年 1月	立命館大学人文科学 研究所、立命館大学 人文科学研究所紀要、 131号		PP. 155-180	有
66	松本健太郎	YouTube 動画によ る「旅の体験」の共 有——コンテンツ/ プラットフォーム	単著	2022年 1月	立命館大学人文科学 研究所、立命館大学 人文科学研究所紀要、 131号		PP. 241-270	有

		ムとしてのその役割			号			
67	二村洋輔	言語変化の装置としてのウェブ発ライトノベル	単著	2021年11月	日本文化學報、91巻		PP. 181-205	有
68	前田一馬	明治前期の陸軍による脚気転地療養地の選定過程	単著	2021年9月	日本地理学会、地理学評論、94巻5号		PP. 381-399	有
69	市井吉興	オリンピックが生み出す「資本主義リアリズム」——現代オリンピックと資本主義の諸相への一考察	単著	2021年9月	大原社会問題研究所、大原社会問題研究所雑誌、755・759合併号		pp. 91-110	有
70	谷崎友紀	近世讃岐の名所と金毘羅参詣に関する基礎的な研究——『金毘羅参詣名所図会』を対象として	単著	2021年12月	せとうち観光専門職短期大学、観光振興研究、1巻1号		pp. 65-72	無
71	谷崎友紀	近世の旅と疫病の関係を探る研究の構築に向けて	単著	2022年3月	せとうち観光専門職短期大学、観光振興研究、2巻1号		pp. 14-23	無
72	加藤雅俊	諫早湾干拓事業とその影響に関する地域住民の認識	単著	2021年12月	『九州法学会報』、2021年号		PP. 42-45	無
73	加藤雅俊	諫早湾干拓紛争はなぜ既存の紛争処理メカニズムでは処理できないか	単著	2021年12月	『九州法学会報』、2021年号		PP. 53-56	無
74	加藤雅俊	諫早湾干拓事業に関する地域住民の認識：アンケート調査から見えること	共著	2021年8月	日本環境会議編『諫早湾干拓問題検証委員会報告書』	樫澤秀木、開田奈穂美	PP. 148-160	無
75	松田亮三	ゲノム情報を用いた健康予測サービス：課題と政策的含意	単著	2021年7月	『保健医療社会学論集』、32巻1号		PP. 3-13	無
76	松田亮三	刑務所医療改革：欧州での取組みから見た日本の課題	単著	2022年1月	現代人文社『刑事弁護』、109号		PP. 117-122	無
77	松田亮三	健康課題のグローバルな緊密化をふまえた共通理念：健康権と普遍医療給付	単著	2022年1月	非営利・協同総合研究所『いのちとくらし』、77号		PP. 38-42	無
78	角田燎	戦後借行社の大規模化と政治的中立のメカニズム	単著	2022年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』、130号		PP. 213-242	有
79	下村晃平	ネオリベリズムの変遷をたどる——「自由主義者か社会主義者か？」(1884)から「ネオリベリズムのマニフェスト」(1982)まで	単著	2022年1月	『立命館大学人文科学研究紀要』、130号		PP. 245-283	有
80	ウェルズ恵子	100年生きたラブソング：恋歌の系譜と1920~30年代ブロードウェイ・ミュージカルの歌詞	単著	2022年3月	立命館大学国際言語文化研究所、言語文化研究、33巻3号		pp. 219-265	無

81	松原大介	内田百閒「昇天」論——作品内の〈現実〉と〈非現実〉を中心に——	単著	2021年9月	昭和文学会, 昭和文学研究, 83集		pp. 122-136	有
82	松原大介	内田百閒「山東京伝」における典拠——「京伝」・「小さい人」・「山蟻」をつなぐもの——	単著	2021年12月	日本文学協会, 日本文学, 17巻12号		pp. 24-33	有
83	市井吉興	2020 東京オリンピック後のライフスタイルスポーツ	単著	2022年3月	日本スポーツ社会学会『スポーツ社会学研究』第30巻第1号		PP. 7-23	有
84	Christine Winter	Health and Medicine during and after the Pacific War: Pacific Islanders and Medical Infrastructure	共著	2021年11月	Health and History, Journal of Australian and New Zealand Society of the History of Medicine	Alexandra Widmer	PP. 1-9	有
85	Christine Winter	Competent Men: Papuan and New Guinean Medical Staff in the Wake of the Pacific War, in: Widmer and Winter	単著	2021年11月	Health and Medicine during and after the Pacific War: Pacific Islanders and Medical Infrastructure		PP. 95-113	有
86	Christine Winter	Raymond Firth in the Antipodes: A “Capacity for Organising and Administration as well as First-Rate Anthropology”	共著	2021年11月	BEROSE: Encyclopédie internationale des histoires de l’anthropologie -International Encyclopedia of the Histories of Anthropology	Geoffrey Gray	PP. 23	有
87	Christine Winter	The International Committee of the Red Cross celebrates 80 years since its first delegation in Australia	単著	2021年6月	Australian Journal of Human Rights		PP. 178-184	有
88	Christine De Matos	Forgotten Forced Migrants of War: Civilian Internment of Japanese in British India, 1941-6’	共著	2021年4月	Journal of Contemporary History	Rowena Ward	PP. 1102-1125	有
89	Rowena Ward	Graduates’ use of Japanese language in the workplace	単著	2021年	National Symposium on Japanese Language Education: Proceedings 2018,	Spence-Brown, R	PP. 83-95	有
90	竹中歩	Context of Reception	単著	2022年	Research Handbook on the Sociology of Migration, Edward Elgar	Cvajner M., Kivistö P. and Sciortino G	TBA	
91	竹中歩	The Immigrant-Homeland Connection: the Development of the Japanese Community in Peru	単著	2022年	The Japanese Empire in Latin America. University of Hawaii Press	Iacobelli P. and Liu, S	TBA	

92	Shinnosuke Takahashi	Introduction: Global Mobility and the Pandemic	単著	2021年	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific Across North and South		PP. ix-xxviii	
93	Shinnosuke Takahashi	The Journey to the Archipelago: Shimao Toshio, Southern Localism and the Dream of Japanesia	単著	2021年	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific Across North and South		PP. 185-208	
94	小林ハッサル 柔子	Breaking the bias in Japan: The challenge of closing the gender gap	単著	2022年8月	ANU Policy Forum https://www.policyforum.net/breaking-the-bias-in-japan/		ウェブサイト記事	無
95	川村仁子	先端科学・技術の研究・開発とリスク管理の両立のためのガバナンス：EUでの試みを事例に	単著	2021年6月	『立命館国際研究』34巻1号		pp. 1-25.	無
96	中谷義和	現代国家の諸矛盾と民主政の視座	単著	2022年3月	『立命館法学』399・400号(合併号)		pp. 628-652.	無
97	松下洸	Post-neoliberalismo, Post-pandemia Covid-19 y sociedad civil global	単著	2021年	Revista Relaciones Internacionales		https://revistas.unlp.edu.ar/RRII-IRI Vol 30 - n° 60	
98	松下洸	コロナ後の世界秩序構想のための批判的検討(上)	単著	2021年	『アジア・アフリカ研究』第61巻第2号			
99	松下洸	グローバル・サウスの時代における「日本の国際協力」とSDGs	単著	2021年	『アジア・アフリカ研究』第61巻第3号			
100	山口達也	天体の利用を巡る専有禁止原則の制度化	単著	2022年1月	『立命館大学人文科学研究所紀要』No. 131		pp. 307-345.	有
101	松井信之	“Common Sense” and Encounters after the “Capital-Nation-State” in the Digital Age: Nakamura Yūjirō vs. Karatani Kōjin in their Philosophies of Imagination	単著	2021年10月	Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University		pp. 317-332.	有
102	北和樹	EUが目指すAI社会のための規制法	単著	2022年1月	『立命館大学人文科学研究所紀要』No. 131		PP. 271-305.	有
103	五十嵐美華	行動システム理論によるバンジュール憲章採択過程の分析—地域機構による国際的な規範の受容と調整—	単著	2021年6月	『立命館国際研究』34巻1号		PP. 101-123.	有
104	白戸圭一	TICAD 8を前に	単著	2022年2月	令和3年度 ニューノーマル・ア	平野克己	PP. 7-13	無

					フリカとの 協働 ビジネス構築の 調査研究 一般財団法人国 際貿易投資研究 所 第125号		
105	本名純	2024年大統領選レ ースと現実味帯び るコロナ改憲	単著	2021年 10月	月間インドネシ ア11月号	PP. 6-13	無

3. 研究発表等						
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名	
1	小関素明	公権力の純理の批判的考察 と民主制 -ステークホルダー型国民 主権への展望-	2022年3月	協同主義研究会	東京 オンライン報告	
2	山口一樹	武官充当職と現役特旨に関 する試論-明治二三~三三 年の軍部大臣武官制を中心 に-	2021年6月	近代日本思想史研究会	オンライン報告	
3	寺沢優	許される売春、禁じられる 恋愛	2021年6月	衣笠ライスボールセミナー	オンライン開催	
4	寺澤優	私娯黙認運動と警察腐敗	2021年6月	中国四国歴史学地理学協会 2021年度 大会 日本史部会	オンライン開催	
5	寺澤優	戦前日本の売買春産業と身 売り	2021年8月	日韓次世代学術フォーラム 第18回国 際学術大会	オンライン開催	
6	寺澤優	座談会 中川小十郎研究の これまでとこれから	2021年10月	(座談会) 立命館資料センター「座談 会 中川小十郎研究のこれまでとこれ から	オンライン開催	
7	西田彰一	水野錬太郎と国士館の教育 —高等教育機関化の礎	2021年9月	近代日本思想史研究会第2回研究会	立命館大学(京都) オンライン開催	
8	西田彰一	史料紹介: 日文研所蔵柳澤 健関係文書	2022年3月	国際日本文化研究センター共同研究会 「国際的文化発信のなかの日本像—柳 澤健の学際的研究—」2021年度第4回 研究会	国際日本文化研究センター(京都)・オン ライン開催	
9	西田彰一	水野錬太郎の教育思想— 政治教育協会における取組 みを中心に	2022年3月	国際日本文化研究センター共同研究会 「日本型教育の文明的位相」2021年 度第3回研究会	国際日本文化研究センター(京都)・オン ライン開催	
10	西田彰一	革命否定の「神話」として の「神ながらの道」	2022年3月	第95回大学寺子屋	佛教大学(京都)・オンライン開催	
11	伊故海貴教	明治10年代の岡田良一郎 と静岡県政—「近代社会」 形成下における「一致」実 現の模索—	2021年6月	日本経済思想史学会第32回全国大会シ ンポジウム「報徳と協同の思想 —自 治・実業・教育—」	オンライン開催	
12	伊故海貴教	近代日本社会形成期の「村」 —三新法体制下における 「共同性」の再編—	2021年11月	日本思想史学会 2021年度大会(第7回 「思想史の対話」研究会「いま、共同体 /共同性を問い直す—思想伝達の間を めぐって—」)	オンライン開催	
13	宮下祥子	社会学者としての日高六郎 —その全体像の把握に向け て	2021年5月	日本社会学史学会関東研究例会	オンライン開催	
14	宮下祥子	戦後思想史研究における 「戦後啓蒙」の論じられ方	2021年11月	日本現代思想史研究会例会	オンライン開催	
15	宮下祥子	日高六郎の戦後啓蒙—学校 教育への関わりとその思想 を手がかりに—	2022年3月	京都自由大学第5回 ZOOM 自由大学	オンライン開催	
16	十河和貴	<書評>小関素明著『日本 近代主権と「戦争革命」』(日 本評論社、2020年)	2022年3月	近代日本思想史研究会例会	立命館大学(京都)	
17	中井悠貴	「国際的民本主義」から「人 類の祖国日本」へ—藤澤親 雄の世界認識—	2021年4月	日本史研究会近現代史部会4月部会	オンライン開催	

18	中井悠貴	「八紘一宇」理念と「世界性」——西洋を視野に入れた「偽書」論者の営為に着目して——	2021年8月	大学寺子屋第90回例会	オンライン開催
19	中井悠貴	「八紘一宇」理念と「世界性」——対外思想戦と「偽書」、神代——	2022年1月	日本思想史研究会例会	オンライン開催
20	丸山彩	大正期の浜松における音楽教育—音楽雑誌『リズム』に着目して—	2021年10月	日本音楽教育学会第52回大会	京都教育大学・オンライン開催
21	吉田武弘	大正中期における政党政治構想の分岐—「国策固定」と「議論可能性」の相克	2021年6月	中国四国歴史学地理学協議会大会日本史学部会	オンライン開催
22	吉田武弘	「公議」の制度化と上院・枢密院—井上毅を中心に	2022年3月	「公議」研究会	オンライン開催
23	眞杉侑里	1934年愛知県公娼制度廃止案にみる貸座敷業者の思惑	2021年11月	韓国日本近代学会第43回国際学術大会	オンライン開催
24	奈良勝司	士紳における儒教と欧化（楊素霞報告「植民地台湾における『明治維新』認識」に対する明治維新論の側からのコメント）	2021年6月	第1回 国際オンラインワークショップ「東アジアにおける明治維新の意味」	オンライン開催
25	奈良勝司	【座談会】中川小十郎研究のこれまで これから	2021年10月	立命館史資料センター座談会（発話者：山崎有恒・長谷川澄夫・奈良勝司他7名）	オンライン開催
26	奈良勝司	鎮将としての三条実美—和宮帰京問題への対応を中心に—	2021年10月	広島史学研究会2021年度大会・日本史部会	オンライン開催
27	奈良勝司	<コメント>「G. Clinton Godart、田中友香理、李セボン報告に対して」	2021年11月	日本思想史学会2021年度大会	オンライン開催
28	奈良勝司	慶応四年の三条実美	2022年1月	「公議」研究会例会	オンライン開催
29	奈良勝司	和宮帰京問題と三条実美—東京行幸・徳川慶喜出兵論も交えて—	2022年2月	東アジア思想文化研究会例会	オンライン開催
30	河原梓水	緊縛シンポにおける偽史の流布	2021年10月	日本倫理学会第72回大会ワークショップ・「く 応用」することの倫理——緊縛シンポ、ブルーフィルム、ジェンダー」	
31	藤野真拳	元良勇次郎の倫理学からみる〈ポスト教育勅語時代〉の道徳思想	2021年10月	広島史学研究会2021年度大会	オンライン開催
32	亀井大輔	デリダの〈経験〉論（德里达的“经验”论）	2022年2月	第二回東アジア間文化現象学会議	
33	佐藤勇一	われわれのなかの異邦、異邦のなかのわれわれ——モンテニューとケネーにおけるエコノミーと自然法をめぐって——	2022年2月	第二回東アジア間文化現象学会議	
34	鈴木崇志	フッサールにおける共同精神と歴史的世界	2022年2月	第二回東アジア間文化現象学会議	
35	亀井大輔	問いとしての「メシア的なもの」	2021年12月	柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』（月曜社、2021年）合評会	
36	黒岡佳征	死者の場所なき歴史と死者と共に生きる歴史——柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』に寄せて	2021年12月	柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』（月曜社、2021年）合評会	
37	青柳雅文	「文化産業」論再考——トランプ時代におけるアドルノの思想の意義	2021年9月	シンポジウム『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』を読む	
38	亀井大輔	歴史からテキストへ——デリダのハイデガー講義にお	2021年8月	ワークショップ「デリダのハイデガー講義を読む」	

		ける「歴史」の両義性を手がかりに			
39	長坂真澄	想像力と事実——歴史概念の新たな相貌——	2021年8月	ワークショップ「デリダのハイデガー講義を読む」	
40	林芳紀	ドーピングのハームリダクションの可能性	2021年9月	京都生命倫理研究会	
41	鈴木崇志	近づくことと離れること：フッサールの「共生」概念を手がかりとして	2022年3月	瀬戸内哲学研究会ワークショップ「共感と理解」	
42	亀井大輔	デリダと虚構性の問い	2021年5月	日本哲学会第80回大会・大会シンポジウム「事実と虚構」	
43	Hideki ENDO	Potential of Tourism both Post- and During-COVID-19: For the Dialectic Demonstration of Shifting from “Gift of Risk” to “Gift of Hospitality”	2021年6月	Keynote Speech of 7th Annual Conference of EATSA (Euro-Asia Tourism Studies Association)、Zoom	
44	遠藤英樹	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）以後の観光の可能性	2021年7月	観光学術学会大会第10回大会シンポジウム、Zoom	
45	遠藤英樹	エアロモバイルな社会における他性	2021年8月	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「COVID-19 以後の新たなモビリティ・パラダイム——モビリティを越えるモビリティ研究」、Zoom	
46	遠藤英樹	新型コロナウイルス感染症による観光の変容と今後の展望	2021年9月	ポストコロナ時代の食とホスピタリティの行方、Zoom	
47	遠藤英樹	「観光の自由」を実現せよ——キノポリティクスの永続マネジメント論	2022年1月	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「ツーリズム・モビリティーズを問い直す——COVID-19 以後のモビリティ・ジャスティスとは何か」、Zoom	
48	遠藤英樹	「情動の Dx」の社会理論へ	2022年2月	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「Dx の光と影——デジタル革命の人文・社会科学」、Zoom	
49	神田孝治	観光学 3.0 へ向けたメタモダニストの視座からの問い——COVID-19 の影響に注目したツーリズム・モビリティーズの再考を通して	2021年7月	観光学術学会大会第10回大会シンポジウム、Zoom	
50	神田孝治	動きゆく目に見えぬもの——COVID-19 からの問い	2021年8月	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「COVID-19 以後の新たなモビリティ・パラダイム——モビリティを越えるモビリティ研究」、Zoom	
51	神田孝治	AI と私一境界から問う AI	2022年2月	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「Dx の光と影——デジタル革命の人文・社会科学」、Zoom	
52	藤巻正己	21 世紀における地球社会の諸課題と観光研究——エリアスタディの観点から	2021年7月	観光学術学会大会第10回大会フォーラム、Zoom	
53	藤巻正己	「アフターコロナの観光のありかた」を問う	2022年2月	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「『アフターコロナの観光学』とその後」、Zoom	
54	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承におけるわざの習得——王立芸術大学とディアスポラ民間舞踊学校の比較から	2021年6月	第57回日本比較教育学会自由研究発表	
55	Saori HAGAI	The Innovative role of vanguard diaspora in Khmer classical dance	2021年9月	CESA 12th Biennial Conference、Virtual	
56	Saori HAGAI	Cambodia-Thailand Cross-Border Education: Poverty, Vulnerability and Childcare Nexus	2021年9月	CESA 12th Biennial Conference、Virtual	

57	羽谷沙織	仏領期カンボジアにおける文化政策と宮廷舞踊の学校化	2021年10月	日本国際教育学会第32回研究大会自由研究発表	
58	轟博志	朝鮮時代における院宇の立地に関する巨視的検討	2021年4月	韓国古地図研究学会2021年春季学術大会	
59	轟博志	唐代新羅道復原試論	2021年11月	第14回奎章閣韓国学国際シンポジウム	
60	轟博志	朝鮮国土の空間的アイデンティティ	2021年11月	文化歴史地理学会年例学術大会	
61	轟博志	第三空間としての朝鮮半島の山水概念	2022年1月	日韓における山水空間認識 Mountain and Water: Space Recognition in Japan and Korea	
62	轟博志	朝鮮と明の道里表体系の比較研究	2022年2月	Current Status and Prospects of Digital History Research	
63	橋本和也	観光学術学会の10年、そしてこれから	2021年7月	観光学術学会大会第10回大会フォーラム、Zoom	
64	麻生将	近代日本の都市部におけるプロテスタント教会の立地とその変化——京都・大阪・神戸を比較して	2021年8月	歴史地理学会第64回大会	
65	麻生将	近代日本のキリスト教集団の排除に関する歴史地理学——1930年代のいくつかの排撃事件を事例に	2021年10月	第199回アジア・キリスト教・多元性研究会	
66	麻生将	観光と排除／観光における排除——いくつかの視点から	2021年11月	立命館大学人文科学研究重点プログラム「グローバル化とアジアの地域」研究会	
67	麻生将	モビリティをめぐる観光空間と生きられる空間のはざままで——北野白梅町駅改修および京都市バス路線変更にかかわって	2021年12月	同志社大学人文科学研究 第12研究「京都のコミュニティに関する総合的研究—都市における「つながり」の実証研究—」第3回研究会	
68	薬師寺浩之	観光者の問題行動を読み解く	2022年2月	観光学術学会第9回研究集会シンポジウム、Zoom	
69	Hikaru KENCHU	The Relationship Between Disaster Recovery and Tourism: A Case Study of the Mount Merapi Eruption in Indonesia	2021年10月	Japan Institute of Tourism Research-TOHOKU、Online-Study Meeting	
70	間中光	アフターコロナと観光のレジリエンス	2022年2月	人文科学研究重点プロジェクト シンポジウム「『アフターコロナの観光学』とその後」、Zoom	
71	谷崎友紀	安政5年のコレラ流行時における旅の状況	2021年11月	立命館大学人文科学研究重点プログラム「グローバル化とアジアの地域」研究会	
72	二村洋輔	『サイバー・アジア』の歩き方——ICTの積極利用とアジア短期英語留学の相乗効果の可能性	2022年3月	日本比較文化学会中部支部 令和3年度例会	
73	松本健太郎	重層化する状況：モノとイメージのネットワークを紡ぐもの	2021年5月	国立民族学博物館研究プロジェクト「グローバル化時代における「観光化／脱-観光化」のダイナミズムに関する研究」(代表・東賢太郎) 研究会	
74	松本健太郎	「体験の技術的合成」から考える「メタ観光マップ」	2021年12月	メタ観光推進機構オンラインシンポジウム vol.3「メタ観光という観光」	パネリストは松本のほか、矢ヶ崎紀子氏(東京女子大学)、山村高淑氏(北海道大学)、菊地映輝氏(メタ観光推進機構)
75	松本健太郎	メディアと化す旅／コンテンツと化す観光——COVID-19がもたらした「バーチャル観光」の諸相	2022年2月	人文科学研究重点プロジェクト シンポジウム「Dxの光と影——デジタル革命の人文・社会科学」、Zoom	
76	加藤雅俊	諫早湾干拓事業とその影響に関する地域住民の認識	2021年6月	2021年度九州法学会シンポジウム、佐賀大学	

77	加藤雅俊	諫早湾干拓紛争はなぜ既存の紛争処理メカニズムでは処理できないか	2021年6月	2021年度九州法学会シンポジウム、佐賀大学	
78	加藤雅俊	諫早湾干拓事業に関する地域住民の認識	2022年3月	日本環境会議主催「“宝の海”の再生を考えるオンライン連続市民セミナー」	
79	松田亮三	欧州における新型コロナウイルス感染症の影響と対応—社会保護上の対応を中心に	2021年11月	日本地域経済学会第33回大会	
80	松田亮三	新型コロナウイルス感染症への公衆衛生上の対応—揺らぎをふまえた感染症対策へ	2021年5月	地域社会学会第46回大会シンポジウム	
81	鎮目真人	年金制度における不人気改革の制度分析—制度縮減の理論と検証—	2021年8月	第16回 社会保障国際論壇	
82	角田燎	旧軍関係者団体における歴史修正主義の台頭と戦後派世代の参加	2021年6月	関西社会学会 72回大会	
83	下村晃平	ネオリベラリズムの変遷——「自由主義者か社会主義者か?」(1884)から「ネオリベラルのマニフェスト」(1982)まで	2021年6月	Cultural Typhoon 2021	
84	三枝暁子	15~16世紀京都の非人集団からみた都市社会	2021年8月	大阪歴史科学協議会7月例会	
85	松原大介	「内田百閒「短夜」論——典拠としての〈髪剃り狐〉——」	2021年6月	第65回立命館大学日本文学大会、立命館大学	
86	市井吉興	資本主義リアリズムとスポーツ研究：フランクフルト学派のアクチュアリティを再考する	2022年3月	日本スポーツ社会学会 第31回大会	
87	Christine Winter	80 Years of ICRC in Australia (public keynote)	2021年5月	ICRC (Australian delegation) & Swiss Embassy, Canberra	単独・招待
88	Christine Winter	Decolonising experiences during the Pacific War	2022年1月	Session: Rethinking Decolonization in Papua New Guinea, ASAO	単独・招待
89	Christine Winter	After the end of empire - mixedness and German colonial "mixed-race" families in the C-Mandates	2021年12月	Africa History Colloquium, Africa Institute and Chair of African History, University of Basel	単独・招待
90	Christine Winter	The Pacific War in PNG – a decolonising impetus?	2021年11月	Pacific History Association Conference, University of the South Pacific in Suva, Fiji, (online)	単独・査読付き
91	Christine Winter	Nationalsozialismus und Mission unter dem Kreuz des Suedens	2021年10月	International Conference "Mission erfüllt? Deutsche Missionswerke, Akteure und Theologien im Schatten des Nationalsozialismus", Deutsche Gesellschaft für Missionswissenschaft (DGMW), Berlin	単独・招待
92	Christine Winter	Decolonising Pandemics	2021年7月	History of Science Conference – supported by & connected to The Pacific Circle: a scientific commission of the International Union for the History and Philosophy of Science	単独・招待
93	Christine Winter	Mourning the dead: The Pacific War in New Guinea	2021年5月	History Seminar Series, Adelaide University	単独・招待
94	Christine Winter	Decolonising experiences during the Pacific War	2021年2月	Session: Rethinking Decolonisation in Papua New Guinea, ASAO conference, Suva, Fiji (online)	単独・招待
95	Christine De Matos	Hidden Occupied Spaces: The home as a sphere of occupation power in Germany and Japan	2021年4月	Cultures of Occupation: New Paradigms, Models and Comparisons, University of Nottingham, UK/Zoom	単独・招待

96	Christine De Matos	Military Men at Home: Masculinities and the occupied domestic space	2021年8月	European Labour History Network (ELHN)/WORCK conference, Vienna/Zoom	単独・招待
97	Christine De Matos	The Occupied Home as a Space of Re-education: Power, Democracy and Housekeeping Manuals	2022年2月	The Ambiguous Semantics of “Reeducation” in Transnational and Transhistorical Perspective. Munich/Zoom	単独・招待
98	Rowena Ward	BRINDIV’s (British India Division) Participation in the Allied Occupation of Japan	2021年8月	The 12 th International Convention of Asia Scholars, Kyoto, online	単独・招待
99	Rowena Ward	BRINDIV’s (British-Indian Division) Participation in the Allied Occupation of Japan	2021年9月	Japanese Studies Association of Australia (JSAA), Australia	単独・招待
100	竹中歩	El papel de la diáspora en el comercio de algodón entre Perú y Japón (1920-1940)	2022年	Asian Studies Institute seminar series, San Marcos University, Peru	単独・招待
101	竹中歩	How Nikkei Food Emerged: A Culinary History of Japanese Immigrants in Peru and the US	2021年	Oral History Association Annual Meetings	単独・査読付き
102	Shinnosuke Takahashi	To the Utopia Across the Ocean: Kawase Isamu and the Origin of Grassroots Internationalism in Post-war Japan	2021年2月	The Japan Studies Centre of the New Zealand Asia Institute	単独・査読付き
103	Shinnosuke Takahashi	In the Backyard of ‘Paradise’	2021年	Inter-Asian Cultural Studies Society, Singapore, online	単独・招待
104	Shinnosuke Takahashi	The Memories between the Two Hills: Matsumoto Akishige and the Commemoration of Korean Conscripted Workers	2021年8月	The 12th International Convention of Asia Scholars, Kyoto, online	単独・査読付き
105	Shinnosuke Takahashi	Translocal Island: The Okinawan Struggle Beyond Minority Politics	2021年9月	The Australian National University Japan Institute	単独・招待
106	Shinnosuke Takahashi	New Zealand and Social Responses to COVID-19	2021年	Kumamoto University Global Studies Seminar, Kumamoto, online	単独・招待
107	小林ハッサル柔子	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific Across North and South	2022年3月	ANU Japan Institute Seminar Series, The Australian National University Japan Institute, online.	招待・単独
108	小林ハッサル柔子	南・北半球を横断する太平洋史	2021年11月	東京大学 GSI キャラバン・プロジェクト「群島と大洋の思想史—太平洋のグローバル・ヒストリー」研究会、東京大学グローバル地域研究機構 (IAGS)、オンライン	招待・単独
109	小林ハッサル柔子	On Inclusion and Exclusion in Smart City”, The 1st Conference on Asian Inclusive Smart Cities in the Post Covid 19 Arena	2021年11月	Graduate School of Management, Kyoto University, Kyoto, Japan, online	査読あり・単独
110	小林ハッサル柔子	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific Across North and South	2021年11月	Pacific History Association 24th Biennial Conference, the University of the South Pacific, Suva, Fiji, online	査読あり・単独
111	小林ハッサル柔子	Diseases, people, ideas and knowledge in Motion: the case of a Japanese bacteriologist, Kitasato Shibasaburo	2021年7月	The 26th International Congress of History of Science and Technology, International Congress of History of Science and Technology	査読あり・単独

112	小林ハッサル柔子	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific across North and South	2021年6月	the Sixth European Congress on World and Global History, European Network in Universal and Global History, online	査読あり・単独
113	小林ハッサル柔子	Changing Attitudes: the formation of a minority agency, Malays in Singapore	2021年6月	the Sixth European Congress on World and Global History, European Network in Universal and Global History, online	査読あり・単独
114	小林ハッサル柔子	西洋中心史観への挑戦	2021年8月	センサーネットワーク研究会 149 回研究会、オンライン・グランフロント大阪 北館 908 号室 VislabOsaka、大阪	招待・単独
115	小林ハッサル柔子	Intensifying gaps in Japanese Society through a Long Pandemic	2021年8月	Pandemic Pressure Points: Economic, Governance and Society in Japan, the Australia-Japan Society of NSW, online	査読あり・単独
116	小林ハッサル柔子	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific across North and South	2021年7月	Global History Seminar No.101, Asian Association of World Historians, Osaka, Japan	査読あり・単独
117	中谷義和	現代国家の諸矛盾と民主政の視座	2022年3月	第3回グローバル・リスク研究会	
118	山口達也	ウルリッヒ・ベック『世界リスク社会論』	2021年8月	第1回グローバル・リスク研究会・衣笠キャンパス	
119	松井信之	ウルリッヒ・ベック再読：過去と現在のリスクの諸相	2021年8月	第1回グローバル・リスク研究会・衣笠キャンパス	
120	松井信之	Society 5.0 as Deus ex Machina?: A Philosophical Perspective of Digitalization	2021年9月	Sociedad 5.0: Visión Japonesa sobre el futuro de la humanidad (Society 5.0: Japanese Vision on the future of human kind) @Universidad de la Serena)	
121	松井信之	Zoom Ahead (or Down?) along Digital Capitalism: Philosophical Arguments of Digitalization, Human Body, and Imagination	2021年10月	International Symposium on Islam, Civilization and Science	
122	松井信之	On the Resilience of Memory and “Common Sense”: Risks of Digital Capitalism and Cross-Narratives of Disaster Experiences	2021年12月	Asia Pacific Conference	
123	松井信之	デジタル化と『グローバル警察国家』における生と死：「余剰人類」と想像力の極北	2022年1月	「越境的暴力」研究会	
124	松井信之	Everydayness and the Absolute in Nakamura Yūjirō’s Philosophy of “Common Sense” : Struggles with Nishida’s Philosophy, and the Gift to the Finite Body from “Backlight”	2022年2月	Alltäglichkeit und Medialität in Japan. Ein Workshop zur interkulturellen Philosophie	
125	北和樹	AI ロボットのリスクと EU の対応	2022年3月	第3回グローバル・リスク研究会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	ワークショップ「デリダのハイデガー講義を読む」	オンライン	2021年8月	50名	脱構築研究会
2	シンポジウム『「アメリカ批判理論：新自由主義への応答」を読む』	オンライン	2021年9月	50名	

3	柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』(2021年、月曜社) 合評会	オンライン	2021年12月	50名	
4	第2回東アジア間文化現象学会議	オンライン	2022年2月	30名	中山大学哲学系
5	〈あいだ〉と〈越境〉——間文化現象学の展開と新たなはじまり	オンライン	2022年3月	40名	
6	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「COVID-19 以後の新たなモビリティ・パラダイム——モビリティを越えるモビリティ研究」	オンライン	2021年8月	100名	科学研究費基盤研究(C)「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究課題/領域番号:20K12442) 研究代表者:遠藤英樹
7	グローバル化とアジアの地域 研究会	オンライン	2021年11月	30名	
8	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「ツーリズム・モビリティーズを問い直す——COVID-19 以後のモビリティ・ジャスティスとは何か」	オンライン	2022年1月	100名	科学研究費基盤研究(B)「観光学3.0へ向けたツーリズム・モビリティの再考」(研究課題/領域番号:21H03724) 研究代表者:神田孝治 科学研究費基盤研究(C)「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究課題/領域番号:20K12442) 研究代表者:遠藤英樹
9	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム「Dxの光と影——デジタル革命の人文・社会科学」	オンライン	2022年2月	100名	科学研究費基盤研究(C)「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究課題/領域番号:20K12442) 研究代表者:遠藤英樹
10	人文科学研究所重点プロジェクト シンポジウム『「アフターコロナの観光学」とその後』	オンライン	2022年3月	100名	科学研究費基盤研究(C)「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究課題/領域番号:20K12442) 研究代表者:遠藤英樹
11	オンライン合評会 宮本太郎『貧困・介護・育児の政治』(朝日新聞出版社、2021年)	オンライン	2021年8月	60名	
12	オンライン合評会 西岡晋『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』(ナカニシヤ出版、2021年)	オンライン	2021年9月	60名	
13	オンライン合評会 筒井淳也『社会学』(岩波書店、2021年)	オンライン	2021年12月	100名	
14	オンライン合評会 佐藤彰宣『〈趣味〉としての戦争』(2021年、創元社)	オンライン	2022年3月	15名	
15	若手研究者支援のための研究会「人文・社会科学の最前線」	オンライン	2021年8月	50名	
16	第2回若手研究者支援のための研究会	オンライン	2022年3月	50名	
17	Occupied spaces: A comparative historical analysis of transnational encounters in private spaces in occupied Japan and (West) Germany, 1945-1955	オンライン	2021年4月	多数	Sophia University Institute of American & Canadian Studies
18	Gender, War and Coerced Labour	オンライン	2022年3月	多数	Stockholm University, Sweden
19	The Future of Global Japanese Studies	オンライン	2021年11月	多数	the East Consortium of Japanese Studies workshop in South Korea
20	Non-Fraternisation Policy and the British-Indian Troops in Occupied Japan		2021年10月		Occupied Spaces workshop
21	第1回グローバル・リスク研究会	オンライン	2021年8月	12名	立命館大学人文研助成プログラム
22	第2回グローバル・リスク研究会	衣笠キャンパス	2021年11月	20名	立命館大学人文研助成プログラム
23	第3回グローバル・リスク研究会	オンライン	2022年3月	12名	立命館大学人文研助成プログラム

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	寺澤優	(メディア報道)「リケジョ」がなくなる日 反響編 研究と家庭両立めざすけど」	朝日新聞	2021年5月

2	寺澤優	(メディア報道)「痕跡を追え! osaka ほんまかいなヒストリー」	テレビ大阪 Osaka Lover	2022年3月
3	亀井大輔	九鬼周造と德里達—偶然性と事件 (九鬼周造とジャック・デリダ— 偶然性と出来事)	中山大学哲学系講演会	2021年9月
4	鈴木崇志	フッサールの社会的作用論	瀬戸内哲学研究会公開セミナー「フッサールの 倫理学と社会哲学」	2021年10月
5	遠藤英樹	新型コロナウイルス感染症以後の 観光—その可能性と課題	UNISC 関西 2021 年度講演会「モバイル・ライブ ズ~おうちドイツ旅を通して考える『移動』~ 」	2021年6月
6	遠藤英樹	新型コロナウイルス感染症以後の奈良 観光を考える	「中核市奈良 21 世紀研究会」時局講演会	2021年8月
7	遠藤英樹	ポストコロナ時代における持続可能 な観光のあり方	立命館大学オンラインプレスセミナー	2021年9月
8	遠藤英樹	街道を旅する—ルートがデスティ ネーションになる	大阪・京都文化講座オンライン「東往西来— 旅する人びとと文化」	2021年12月
9	遠藤英樹	コロナ禍やコロナ後の観光のあり方 を探る オンラインセミナーを開催	中日新聞	2021年9月
10	遠藤英樹	時流のミカタ	京都新聞	2021年10月
11	遠藤英樹	Go To トラベル年内再開に向けた動き 第6波への懸念や課題も	京都新聞	2021年10月
12	遠藤英樹	UNCOVERED	産経新聞	2021年11月
13	遠藤英樹	客足回復に対する期待が強まる宿泊 業界 ホテルは危機をいかに乗り切 るのか	産経新聞	2021年12月
14	遠藤英樹	高級ホテルの激戦区京都 生き残り のカギは付加価値による差別化	産経新聞	2022年1月
15	山本理佳	ツーリズムが求める産業遺産の歴史 性とデジタルテクノロジー	立命館大学土曜講座	2022年1月
16	谷崎友紀	旅日記からみる近世京都への旅と名 所見物	大阪・京都文化講座オンライン「東往西来— 旅する人びとと文化」	2021年12月
17	間中光	被災地の観光から地域観光へ—ム ラビ山噴火災害後の10年の歩み	日本観光研究学会東北支部 Newsletter「東北紀 行」40号	2022年1月
18	市井吉興	北京五輪を考える	京都新聞朝刊	2022年3月
19	Shinnosuke Takahashi	Book review : Dangerous Memories in Nagasaki: Prayers, Protests and Catholic Survivor Narratives	Oral History Australia, Issue 43, pp. 227- 229	2021年
20	Shinnosuke Takahashi	Tokyo Olympics: The Past Recalled	Asia Media Centre	2021年6月
21	川村仁子	ウィリアム・I・ロビンソン、松下冽 監訳『グローバル警察国家：人類的 な危機と「21世紀型ファシズム」』書 評「商業精神 (Handelsgeist) のゆく え」	『季刊・現代の理論』	2022年2月
22	佐藤誠	「人びとのなかの冷戦世界—想像が 現実となるとき」 パネリスト	大仏次郎論壇賞受賞記念・益田肇・特別講演会	2022年2月
23	松井信之	Digital Media Practices in Households: Kinship through Data, written by Larissa Hjorth, Kana Ohashi, Jolynna Sinanan, Heather Horst, Sarah Pink, Fumitoshi Kato, and Baohua Zhou	Asiascape: Digital Asia 8(3), pp.275-279.	2021年12月
24	五十嵐美華	ウィリアム・I・ロビンソン、松下冽 監訳『グローバル警察国家：人類的 な危機と「21世紀型ファシズム」』討 論者	第2回グローバル・リスク研究会	2021年11月
25	白戸圭一	アフリカにおけるロシアによる情報 操作と世論形成	朝日新聞グループ+ (Web版)	2022年5月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	鈴木崇志	日本倫理学会	和辻賞（著作部門）	『フッサールの他者論から倫理学へ』	2021年10月
2	橋本和也	観光学術学会	2021年度「著作賞」	『地域文化論 新たな観光学への展望』単著 ナカニシヤ出版	2021年7月
3	角田燎	関西社会学会	奨励賞	旧軍関係者団体における歴史修正主義の台頭と戦後派世代の参加	2021年6月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	亀井大輔	20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	代表
2	鈴木 崇志	「二人称の他者」の現象学：その形成史と現代的意義の研究	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
3	伊勢俊彦	日常的思考と行動の基盤の不安定化・喪失からの回復にかんする哲学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
4	遠藤英樹	グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
5	山本理佳	現代観光におけるガイドツアーの重要性に関する研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
6	神田孝治	観光学3.0へ向けたツーリズム・モビリティの再考	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	代表
7	韓準祐、間中光	パンデミック時代の人口減少地域の観光による持続可能なコミュニティ作りへの比較研究	基盤研究(A)	2021年4月	2027年3月	分担
8	加茂利男	公教育と社会活動を通じた政治統合の日加豪3ヵ国比較研究——流動化する時代の政策対応	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
9	松田亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
10	鎮目真人	公的年金制度の制度改革と脱貧困化に向けた政策立案	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
11	加藤雅俊	「家族主義レジーム」の変容に関する国際比較研究	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	代表
12	三枝暁子	郷・村名初出データにみる日本中世の民衆社会	基盤研究(A)	2018年4月	2023年3月	代表
13	ウェルズ恵子	ミンストレルショーと初期ミュージカルの研究：舞台芸能交流の観点から	基盤研究(C)	2018年4月	2021年3月	代表
14	竹中歩	グローバル文化戦略としての「食」：「ニッケイ料理」をめぐる階層の力学	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
15	小林ハッサル柔子	太平洋戦争と国際移動のグローバル史：アジア地域からオーストラリアへの疎開者の歴史	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表
16	Paik Yonjae (受け入れ教員) 小林ハッサル柔子	『トランスナショナルな有機農業運動の創出の歴史—20世紀の東アジアの事例から』	外国人特別研究員 22F21302	2022年3月	2024年3月	受け入れ教員
17	川村仁子	国際的な官民連携による先端科学技術ガバナンスの研究：ナノテクノロジー分野を事例に	若手研究(B)	2017年4月	2023年3月	代表
18	小関素明	終戦工作と戦後民主主義	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
19	吉田武弘	大正期における政党政治構想の競合と貴衆両院関係の再編	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
20	眞杉侑里	昭和初期 廃娼企図県における人身売買問題への取り組み	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表

